

## 身近な有毒生物

くも

# 蜘蛛類

クモ類のほとんどが、捕らえた獲物を麻痺させるために毒腺とよばれる器官を持ちます。クモが積極的にヒトに咬みつく可能性はありません。ヒトがクモに咬まれるのは、不用意にクモを触ってしまった場合がほとんどです。

日本で報告されているクモによる咬傷被害は、ほとんどがス

スキの葉などに巣をつくる在来種のカバキコマチグモによるものです。毒をもつクモとして報道されることのあるセアカゴケグモや、ハイイロゴケグモは、1990年代に海外から日本各地に侵入した外来種です。ゴケグモの仲間は、神経毒の $\alpha$ -ラトロキシンをもつことから注意が必要です。両種ともに、2014年10月現在までに葉山町からの報告はありません。

毒グモに対する正しい知識をもち、見慣れないクモを見かけた場合には、素手で捕まえたり、触らないなどの対応をすることが必要です。ゴケグモ類は、棲息している地域からの荷物や車などの移動に伴い分布を広げている可能性がありますのでご注意ください。



セアカゴケグモ

画像提供 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室

セアカゴケグモは、オーストラリア・ニュージーランドなどの熱帯から温帯地域に広く分布する大きさ1cm以下の種類です。日本国内では1995年に大阪府高石市で最初に発見されました。2012年には神奈川県大和市から記録されています。日当たりの良い暖かく乾燥した場所を好み、コンクリートブロックの隙間や物置、庭石やプランターの間、側溝など低いところに巣を作ります。



ハイイロゴケグモ

画像提供 小野広樹氏

ハイイロゴケグモは、世界の熱帯地域に広く分布する大きさ1cm以下の種類です。日本では1995年に神奈川県横浜市で最初に発見されました。日本国内では国際航路の船舶が寄港する港湾や空港のベンチの下などから記録されています。

これまでに日本ではセアカゴケグモの毒で死亡した事例はありません。またオーストラリアでも1956年に血清が開発されて以後の死亡事例はありません。